

東京五輪聖火リレー県内14市町村の詳細コース

4月2日
実施

★ 式典会場
(県の発表や取材による)

4月3日
実施

五輪遺産 聖

県内ルート 1998年長野

ルート選定 水面下で曲折

県内では聖火リレー詳細ルートを巡る県などの水面下の調整で、曲折のあった市町村もあった。17日、唯一詳細ルートが発表された。唯一詳細ルートが発表された。唯一詳細ルートが発表された。

大会組織委員会は6月に全国のルート概要を発表。この時は実施される市町村名と、各日の最終地点で行う式典会場などを示すにとどまった。詳細ルート確定に向け、警察の安全確認や現地調査なども行いながら調整を進めた。

公表されたルートについて、松本市の伊佐治裕子・文化スポーツ部長は「松本のメインストリートを通って松本城に至る一番ふさわしいコース」と評価した。市は当初、この日示されたルートとは違うコースを案として、真実行委員会に提案していた。蔵造りの街並みが残る中町通り、伊勢町通りなどを通るコースも検討したが、交通規制の難しさなどから見送られた。職員一人は「もう少し長いコースにしたかった」。

市交流文化芸術センター(サントミューゼ)を出発し上田城跡公園にゴールする上田市。担当者は「過去から未来をイメージするように(出発とゴールが)逆コースも検討した。スタート前の待機スペースなどを考え、落ち着いたという。リレー開催の頃は同公園の桜開花時期と重なり、担当者は「多くの観光客や春休み中の子どもたちに見てもらえればいい。半面、異動時期となるのが警備や運営面では懸念材料。引き継ぎや連絡体制などを綿密に詰めていく必要がある」。

希望が反映された自治体も。飯田市は、県実行委に要望していた「りんご並木」がコースに入った。牧野光明市長は「飯田のまちづくりのシンボルなので、市民も喜んでいと思う」と歓迎した。市内のリレーは、飯田合同庁舎の前でゴール。ルートの大部分が、11月中旬に毎年行う「県縦断駅伝」の最終区間と重なる。県南信州地域振興局の土屋智則局長は「沿道の人にとっての見やすさや警備の面などで、駅伝のコースとして使われてきた実績は重要だろう」と指摘した。

伊那市は中心市街地を通るルートが選ばれた。毎年3月の「春の高校伊那駅伝」のコースにも重なる。白鳥孝市長は17日、「商店街でもありにぎわいにもつながる」と笑みを見せた。諏訪市は諏訪湖畔を走るルート。金子ゆかり市長は「交通整理のしやすさなどを考慮したのではないかと。世界的なビッグイベント。みんなで盛り上げて、多くの人の記憶に残る聖火リレーにしたい」と話した。

松本市は、市営開智大型臨時駐車場をスタート地点とし、松本城跡公園にゴールする。松本市長は「松本城跡公園は、松本市のシンボルであり、市民も喜んでいと思う」と歓迎した。市内のリレーは、飯田合同庁舎の前でゴール。ルートの大部分が、11月中旬に毎年行う「県縦断駅伝」の最終区間と重なる。県南信州地域振興局の土屋智則局長は「沿道の人にとっての見やすさや警備の面などで、駅伝のコースとして使われてきた実績は重要だろう」と指摘した。

台風復興支援

4府省に要望

県会災害対策連絡本部

県会の災害対策連絡本部は17日、内閣府など4府省に台風19号災害からの復旧・復興への支援を要望した。県や市町村が行う復旧・復興関連予算の確保や、2020年度までの3年間で実施中の「国土強靱化」に対する地方財政負担の軽減などを求め

た。

本部長の清沢英男議長ら5人が内閣府と総務、国土交通、環境の各省を訪れ、幹部らに要望書を提出した。内閣府と総務省には、最大300万円を支給する被災者生活再建支援金の支給額引き上げなどを要望。国交省には、統一的な方針に基づき改良や維持管理を行うため、千曲川など国管理の1級河川にある県管理の「中抜け区間」の解消に向けた早急な見直しも求めた。

清沢議長は要望後の取材に「長野県を含む被災地の復旧・復興を何とか助けようという強い気持ちを各省庁から感じた」と話した。

